

## 地盤情報データベースを用いた宮崎平野の沖積層の3次元モデル 3D-geological model of alluvial formation under Miyazaki Plain using borehole database

石原 与四郎<sup>1\*</sup>, 古賀 千裕<sup>1</sup>

ISHIHARA, Yoshio<sup>1\*</sup>, KOGA, Chihiro<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 福岡大学理学部

<sup>1</sup>Department of Earth System Science, Fukuoka University

宮崎平野南部の大淀川下流域の地下には、50 m以上の厚い沖積層が分布する。本地域の沖積層は西方の西日本火山帯からの火山砕屑物を含有する浅海成・河成および湿地成堆積物で構成され、大淀川の上流へ向かって形成された埋没谷を埋積している(外山, 1982 等)。この地域の沖積平野には、4 段の完新世の段丘地形が認められ、この段丘面上には旧河道や自然堤防などの微地形も発達する。段丘は構造運動により隆起していると考えられており、縄文海進の旧汀線高度は約 8m の高さに分布する(長岡, 1991)。

このようなセッティングにおいて沖積層の構成堆積物の分布を把握することは、相対的に複雑な履歴を経たと考えられる沖積層の形成過程を明らかにするだけでなく、軟弱地盤の把握などの地盤工学的な応用を考える上で重要である。一般に沖積層は水平方向への連続性が良く、関東平野ではそれを利用したモデルの構築がしばしば行われてきた。本研究では、同様な手法を用い、宮崎平野の数値化された土質ボーリング情報から、3次元地質・地盤モデルの構築手法の検討およびグリッドモデルの構築をおこなった。

キーワード: 宮崎平野, 3次元モデル, 沖積層, 浜堤, 軟弱地盤, 隆起地域

Keywords: Miyazaki Plain, 3D model, Chuseki-so, beach ridge, soft ground, uplifted area